

小學初教

稻垣千穎校閱  
塚原苔園編  
二

K116,1  
249  
2

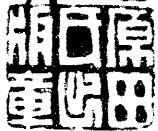
稻垣千穎校閱  
塚原苔園編

卷二

# 小學初教

版權免許

博文堂藏版



## 小學初教卷之二

### 目次

孝悌

忠節

事師

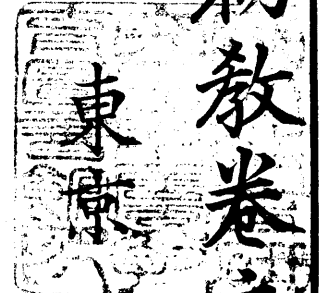
友誼

禮儀

小  
學  
初  
教  
卷  
之  
二  
十  
二  
百  
三  
十  
三  
頁



小學初教卷之二



東京 稻垣千穎校閱  
塚原苔園 編

第一章 孝悌

- 父母の思はかぎりなくして  
天地よひとし
- 人比缺く處からざるえは

小學初教 卷之二 二 博文堂藏版

# 孝悌は道なり

○父母の事ふるには温和を主とすべし

○温和とは顔色をよろたむしめ。言葉を和しするをいふ

○父母の命は何事にも立ち働きて。決して勞をいとふこと

# あかれ

○父母の心を悦しめて。其の意に違ふ處からば

○一言一行も父母をして。憂へ志むることあかき

○孝は父母をやすんむるより。大なるはあし

○父母を寧んずとは。これをい  
て。安堵せしむることあり

○不孝は。父母をわづらはすよ  
り。甚しきはあり

○父母を累すとは。之をして。心  
配せしむることなり

○孝行の者は。人ふ愛せられ。不

孝の者は。人よまてらば

○父母ふ孝あるものい。必君よ  
忠あり。といへり

○世間第一ふ。うやまふべきは。  
忠臣孝子あり。といへり

○兄弟姉妹は。ともに父母の遺  
體あり

○弟妹はよく兄姊ふ悌あるべ

い

○兄姊も能く弟妹を愛まべ

○悌とは兄姊ふよく敬ひ事ふ

ることあり

○愛とは弟妹哉よくあはれみ

慈むことあり

○孝悌を行ふよは愛敬を本と

すといひり

○をさあま子供も能く其の親

を愛まることを知れり況ん

や。學齡の兒童とあるふおい

てをや

第二章 忠節

○君の恩は涯なきことはなほ  
父母の恩乃ぶと

○人の世は衣食住をあたはみ  
な君の恩徳あり

○人も生るれば其の國は報ゆ  
る義務あり

○國は報ゆとは 皇室は忠

國家を愛するをいふ

○皇室は忠とは誠を盡して  
君小事うまつることあり

○國家を愛すとは國の爲は力  
を盡すことあり

○義務とは人たる者の務め行  
ふべき責を去ふ

○君小忠一國を愛するは則其の恩徳よ報ゆるえれあり  
○恩徳ふ報いざるは臣たる道よそむけり  
○臣として君恩ふ報ゆはこと能わざきは禽獸よひと一

第三章 事師

○人は何事も生きながらよ一て知るものふあらば  
○父母教師の教よよりて初めて道を知るえのなり  
○教育の道は人を善道ふ教へ導くためなり  
○教師は父母ふかえりて我を



教育ある恩人あり

○教育とは。學業を教へて。身を修めしむるを云ふ

○教師を尊び敬まはざれば。教育を受くる道小背く

○師弟の間よは。貴賤貧富の別なく

○教師小事へては。おのれ富貴ありとて。決して。おごり高ぶる處からば

第四章 友誼

○人は。朋友の交を貴しとば

○朋友は。互小惡しきことをいさめて。善き道を勸むべし

○朋友よは忠ふ告げて善よ導く。といひり

○忠ふ告ぐとは。切磋して善を責むることなり

○朋友は。我が身のたからあり。と志る。願ふ

○朋友を求むるよは。よき人を

撰ぶ。願ふ

○善き人と交ま。日ふ善き道よま。む

○悪しき人と交ま。日に悪しき道よおもむく

○朋友よ。益ある者と損あるもの。とあり

- 實直よして。廣く事を知りおきまへたる者は。益友なり
- 行をかざり。人ふおびへつらふ者は。損友なり
- おのれよ勝れる者を。友とせれば。我に益あり
- 己ふ如かざるものを。友とせ

- きば。我よ損あり
- 益ある者と交まば。自ら足らむとする心おこる
- 損あるえれと交まば。おのれ充分ありと思ふ心生じ
- 水は。方圓のうつはよ隨ひ。人は。善惡の友よよるといへり

第五章 禮儀

○禮儀は人の行は本あり

○禮といひ人の品よして身の作法をいふ

○儀とは起ち居振舞の宜しきを以ふ

○禮儀を行ふよひ恭敬を本とす

す

○己をうやく志くするを恭といふ

いふ

○人をうやまふを敬といふ

○貴賤上下皆ほごくよ。禮儀あり

○禮儀を知らざる時人の行

たゝず

○ 禮儀正しき者は人ようやまはる

○ 禮儀を知らざる者ハ人小いやしめらる

○ 人富むとも。禮儀なまは賤しと云

○ 人卑しきも。禮儀正しきハ貴しと云

○ 禮に坐禮と立禮との別あることを志るべし

○ 父母小對しては。こと小禮儀を正しくし。言葉を謹む處し

○ 父母坐せると死は坐禮を以

て敬ひ事ふべし

○父母起てる時ハ立禮を以て

敬ひ事ふべし

○朝は早く起きて顔を洗ひ口

をそそぎ髪を理むべし

○朝起くる時と夜寝ぬる前は

必父母を拜まべし

○他出せんとする時ハ必父母

ヨ其のゆく先を告げて許を

受くべし

○家ヨ歸れば父母ヨ其の由找

告げて機嫌を問ふべし

○父母の出づるふはかならば

送り歸るにハ必迎へて禮を

盡すべし

○父母召まると死に敬禮して其の命を待つべし

○父母の命いまだ終らざるまきよ。こたへをまべからば

○父母よ言を述ぶる時に静ふまべし

○父母小對しては手を懷ふて言を述ぶる等の無禮をまべからば

○父母の前を通るときは腰をかゞめ。兩手を膝よすべし

○父母の前を通ると死。手をふり。體をのむし。足音を高くす

る等の事あるべからず

○父母より物を賜ふときは。兩手より戴き受くべし

○父母小物をまきむるときは。兩手より持ち敬んで之を捧ぐべし

○父母の前をうしろふして坐

まべのらず

○父母の前よて唾をはき又伸び欠びをするは無禮あり

○父母の前ふて祖ぬぎ又はだかなどの醜き行あるべからず

○途中ふて父母より行き遇ふ時



は其の右ふ除けて敬禮すべ

い

○途中よて父母ふ言を述ぶるときは腰を屈め手を膝よす

べい

○父母よ伴ひて路を行くときい其の後に隨ふべい

○尊者長者ふ事ふるとたもまた父母のぶとく禮儀を盡す

べい

○同輩又は下のもれふまはる時といつども上の人よ對まる心を以て禮儀を正しく

すべい

小學初教卷之二終

菱潭書



明治十七年二月廿九日版權免許

定價金錢五厘

校閱人

埼玉縣士族

稻垣千穎

静岡縣士族

塚原苔園

編者

東京四谷區四谷坂町百六番地

東京府平民

原田庄左衛門



出版人

全本郷區本郷元町壹丁目五番地



# 小學初教

稻垣千穎校閱  
塚原苔園編  
三

K110.1  
249  
3